

街路樹

学力向上に向けて ⑧

～聞く力を育てる～

今日は「平行四辺形の面積の求め方を考えよう」とめあてを提示し、いざ、求め方を考えていこうと授業が始まった時、「先生、何やるの?」という声があがったことはありませんか。これは、めあてのかみくだきが必要な児童がいたり、教師の目標設定が実態に即していないということだけではないように思います。つまり、子どもたちに、話を聞く姿勢そのものが身につけていないと考えられます。人の話に耳を傾ける集中力、分かるようと努力することは授業の集中に結びつくと思います。それでは、聞く力を育てるために教師ができることは何でしょうか。読書もその手だての一つと考えています。我慢強く活字を目で追う習慣と、映像や音声を受け身のみの習慣とでは、身につくものが全く違って来るものです。相手の話を聞き、それを受けとめる心が育まれた結果、学習への理解が高まることは言うまでもありません。

次に、当然教師の言葉かけも大切になってきます。誉める時も、一生懸命誉めてもダメ、単に美しい言葉だけでもダメ、子どもの実態に合った心に届く言葉をかけなければ、子どもが「何?」と耳を傾げることもありません。つまり、子どもの学習の興味・関心は、教師の言葉かけ一つで意欲につながるか、無気力に陥ってしまうか大きな分かれ目になります。子どもの心に届く言葉を授業に限らず使えるよう、教師が言語技術を高めることこそ学力向上につながる大切な手だてと考えています。



聖職の「聖」、音楽を聴くの「聴」、心に響く教えの中には、耳へんが大きくなっている漢字が数多くあります。また、「聞」という漢字は、音が閉ざされると書きます。私達が、聴く耳を大きく持ち、学習のわからない聞から、子どもたちを救い出すような授業を展開できた時、教師としての充実感が味わえるのではないのでしょうか。

まずは、子どもたちに「聞く力」を育て、私たちが聴く耳を持つことが、学力向上へつながる道と確信しています。



授業の改善 ⑨

前回の「板書の指導」に引き続き今回は「ノートの指導」についてお話しします。

ノートは一人一人の学びにとって、思考の場や記録の場としての機能を有する最も重要なデータツールである。

ノートの持つ教育的機能

- 記録に留めることができる
- 理解を確かにし、思考、認識及び想像力を養う
- 語彙力、表現力が養われる
- 個が生かされ、自己評価、教師評価の場となる
- 学習の仕方が工夫され、充実感が得られる

よいノートの条件

- 自分の学習の足跡の全てが書き込まれていること
- 教室での学習が正確にしかも要点が記録されていること
- 自主的に何かをプラスしていること(友達の考え、自分の考えとの比較等)
- ノートそのものから充実感が感じられるものであること(自分なりの工夫がしてあること)
- 言葉を大事にしていること(キーワードや重要語句をおさえてあること)

ノート指導上の留意点

- ノートは板書のコピーであってはならない
- きれいなノートがよいノートではない
- ノートをとる時間の保障
- ノートのとり方の継続的な指導

指導技術 ⑩

二小学校における学習へのきっかけづくり

1. **遊びを取り入れて学習へのきっかけを持たせる。**
小学校低学年では、サイコロ、おはじき、ボール、玉、輪、木の実など、身近にあるものを利用し「ごっこ遊び」をとり入れて加減算のきっかけを持たせ、意欲的に学習を展開させる。
2. **水遊びをとり入れて、算数や理科の学習へのきっかけを持たせる。**
リットル、デシリットルなどの単元の学習では、水遊びなどをグループでさせ、興味・関心を高めながら、具体的な水の操作を通して理解させる。
3. **文字遊びをとり入れて国語の学習へのきっかけを持たせる。**
「しりとり遊び」や、「カルタづくり」と「カルタ遊び」、そして友達や先生との「お手紙遊び」などを通して興味・関心を高める。など、楽しく学習するために創意や工夫をしてみたいかがでしょうか。

研修の感想紹介

へき地教育担当教員研修

- 初めて複式学級担任になり、日々考えることやすることが多く迷いばかりでしたが、心構えが少しできたように思います。(小・W)
- わたり、ずらし、直接指導、間接指導という言葉とその意味については、分かっていたつもりでしたが、今日実際に学び、よりスッキリとしました。(小・M)
- 全て初めてのことであったので大変勉強になりました。教材研究は当たり前、複式学級としての“技”を学ぶことが出来ました。(小・M)
- 自分の学級の実態に応じた学習ガイドの流れを子どもたちと作って取り組んでいきたいと思いました。(小・W)

初任者研修授業研修②

- 今回の研修においても、学ぶことが沢山あった。まずは、教材研究の大切さである。活動することやゲームで得られる「面白さ」や「楽しさ」だけでなく、「知的な面白さ」や「楽しさ」を子どもに味わわせたいと思った。(小・W)
- 昨年度初任研を受けられた小・中学校お二人の先生方からお話いただいた。1年目の教員生活を振り返り、生徒と共に歩み成長していく喜びや、忙しい校務の中で先輩教師から仕事を学び、信頼関係をもつことの大切さなど実体験に基づくお話が多く、納得するものが多かった。(中・M)
- 私にとって毎回のグループ研修を楽しみにしています。これからの学校生活への意欲と勇気を持たせてもらえる大切な機会と捉えています。このような機会を与えていただけることに感謝しています。(中・W)